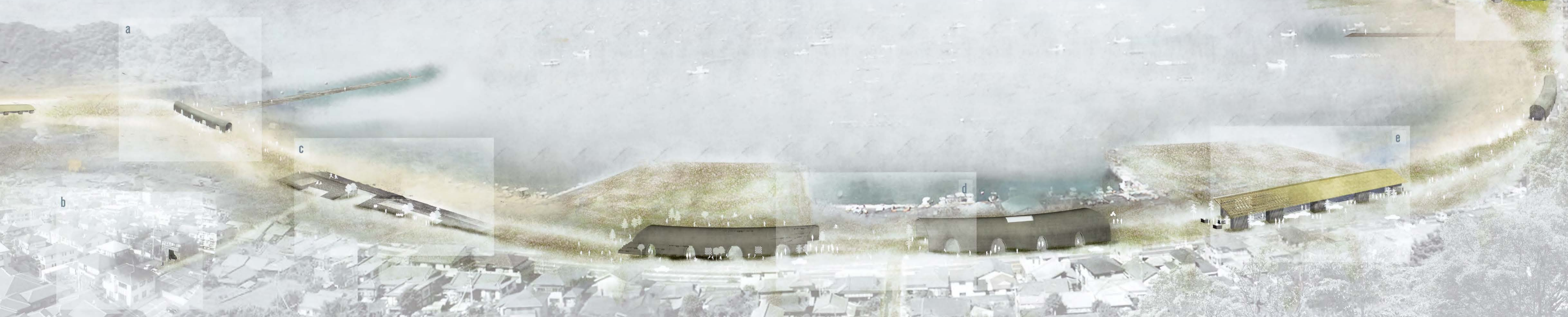


# 灰創街彩

私たちは「時計装置」をこう考える。  
「土地のリズムと共に生きる建築である」と。

鹿児島県鹿児島市。  
桜島が近くにあるこのまちでは、年間 1700 回灰が降る日常がある。  
噴火はインフラや水質悪化等植物等、人間だけでなく様々な生き物に影響を与えている  
しかし、降灰という「土地のリズム」は埋め立て地へと処分され消えてしまっている。

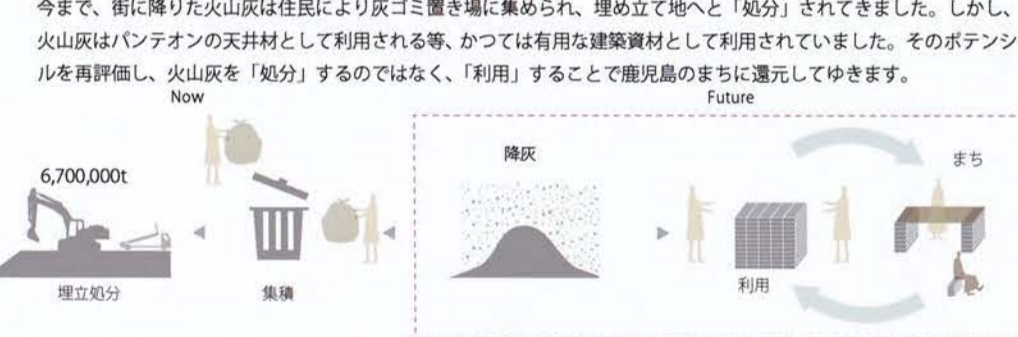
これは  
灰を処分するのではなく、灰利用し「人・植物・水 etc 生き物を守る場所」を生み出してゆく事で  
噴火という地球のリズムと共に生きる建築の提案である。



## 1 年間 1700 回 灰が降る日常：鹿児島県鹿児島市、桜島周辺



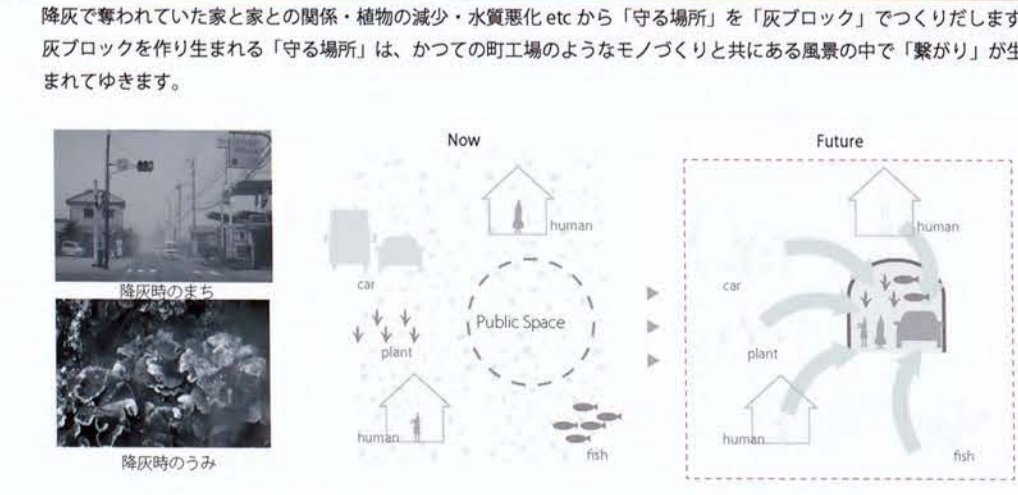
## 2 灰を「処分」から「利用」へ：建築資材としての灰ブロック生産工場



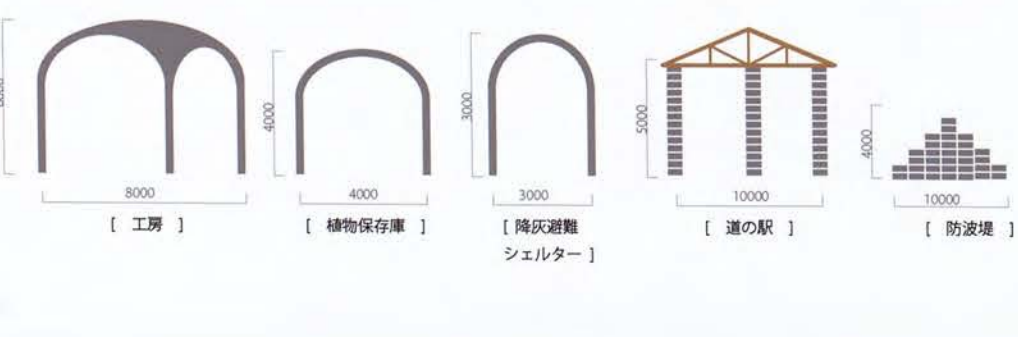
## 3 まちに潜在するかたち：アーチ架構・組積



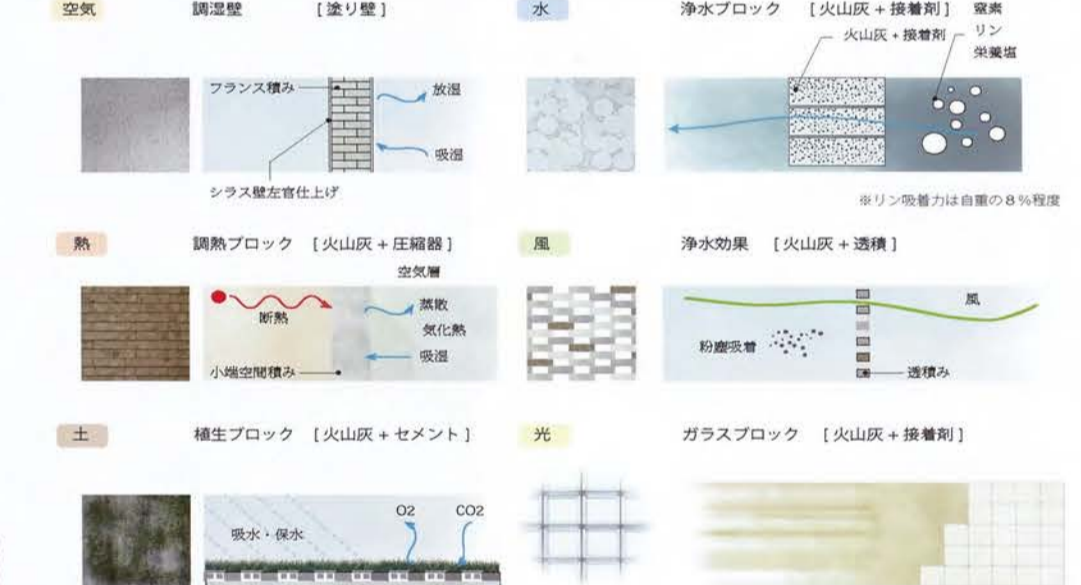
## 4 「灰ブロック」でつくる「守る場所」/「守る場所」がつむぐの「繋がり」



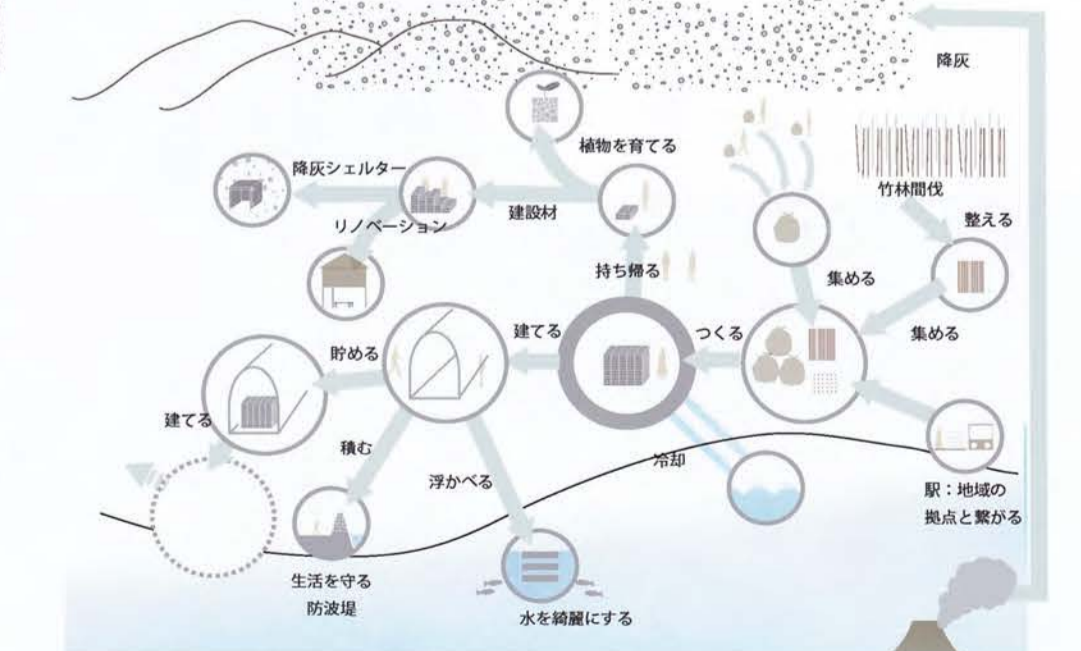
## 5 素材適所の「守る場所」のつくりかた



## 5 火山灰ブロックの6つの環境性能



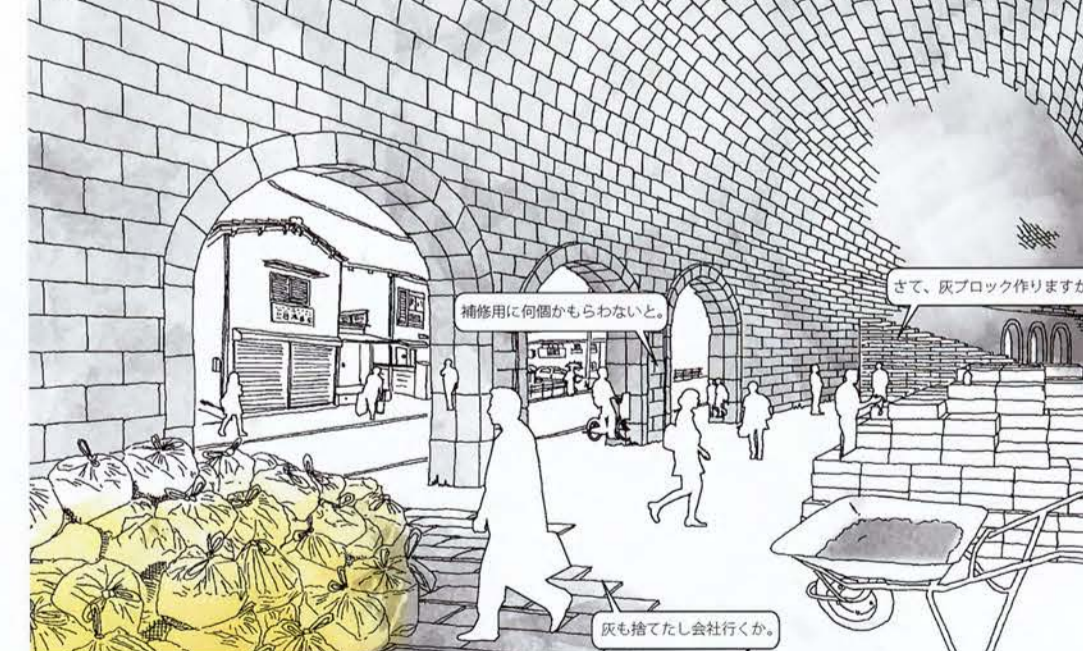
## 6 火山灰を中心としたネットワーク



## 7 土地のリズムを顕在化してゆく灰の風景



## 8 場所にあった形式を選びながら伸びてゆく



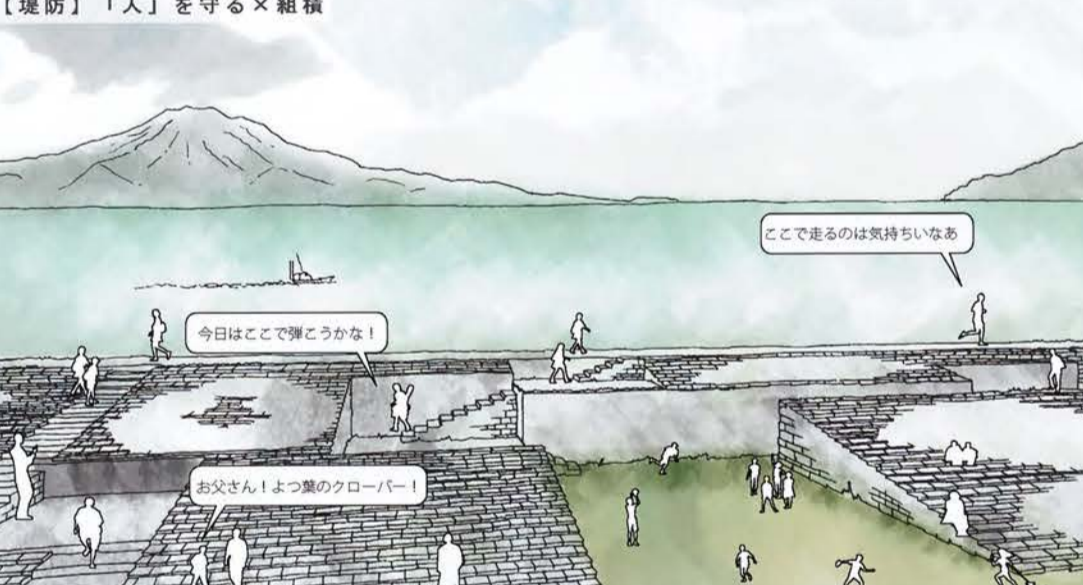
## 9 年間 1700 回 灰が降る日常：鹿児島県鹿児島市、桜島周辺



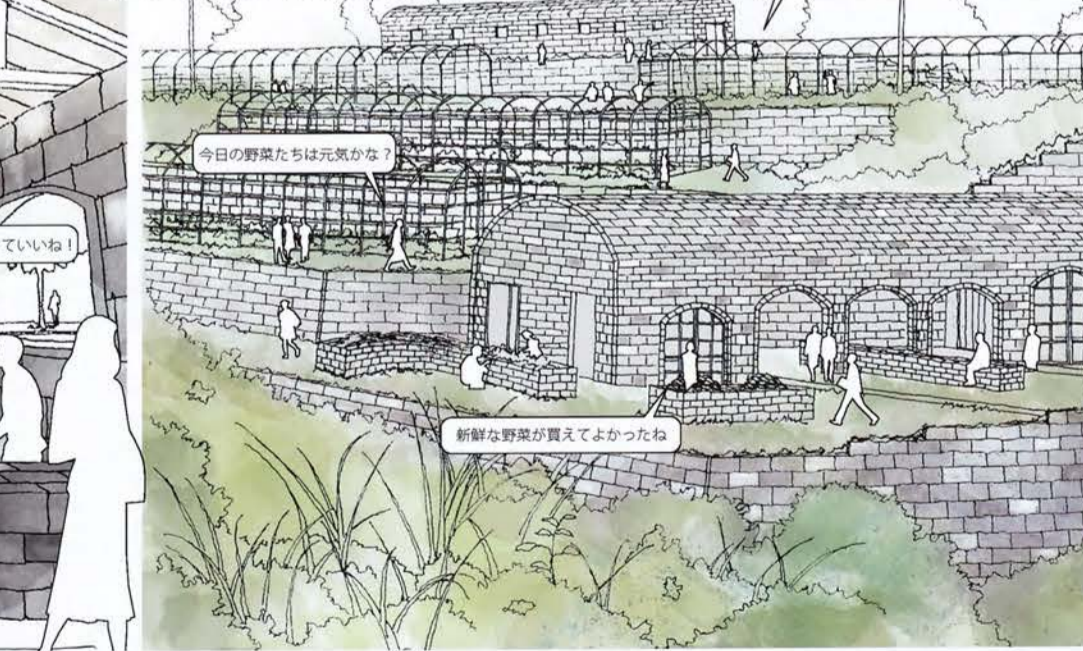
## 10 火山灰を中心としたネットワーク



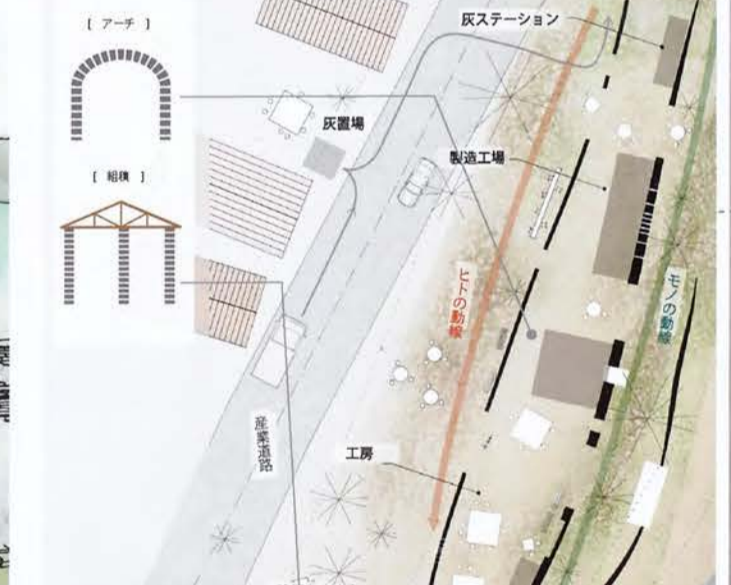
## 11 年間 1700 回 灰が降る日常：鹿児島県鹿児島市、桜島周辺



## 12 火山灰を中心としたネットワーク



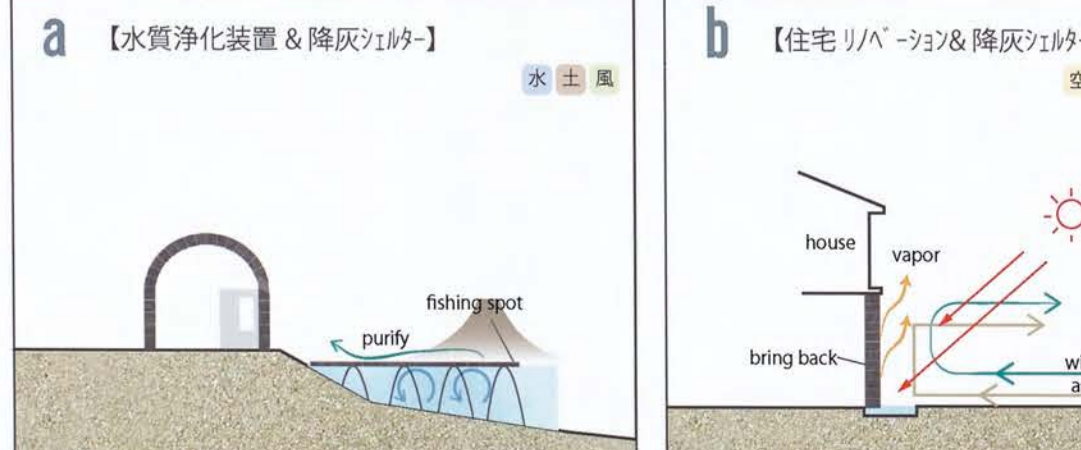
## 13 年間 1700 回 灰が降る日常：鹿児島県鹿児島市、桜島周辺



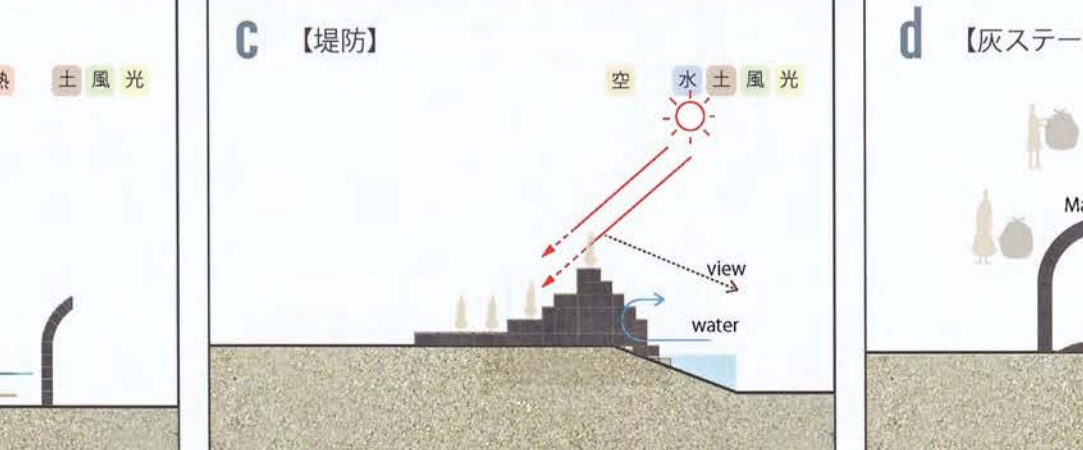
## 14 火山灰を中心としたネットワーク



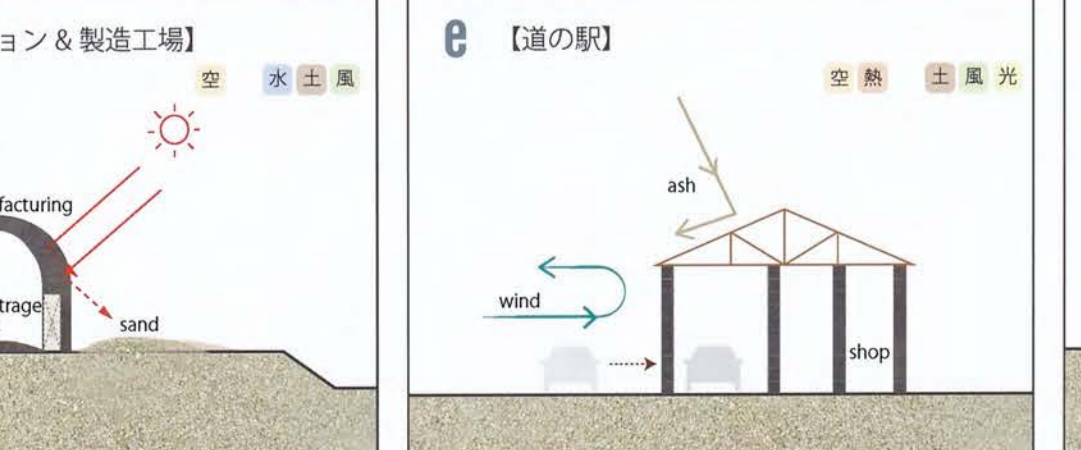
噴火回数：52回 噴火回数：318回 噴火回数：495回 噴火回数：612回 噴火回数：671回 噴火回数：1151回 噴火回数：1352回 噴火回数：1685回



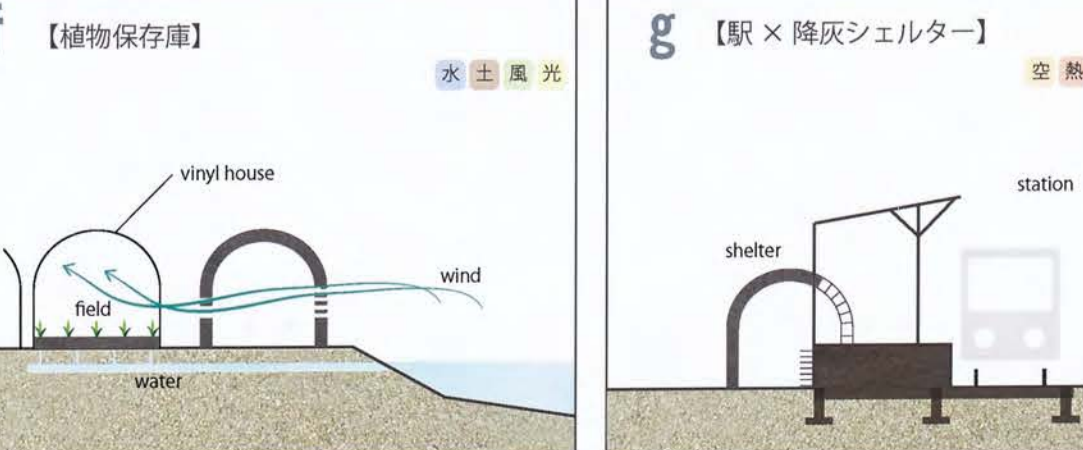
ここでは、製造所でつくったブロックで浄水装置をつくる。  
火山灰の粗粒であるリソラを吸着して汚れだけでなく、微細なバクテリアもろ過する層を守る層を兼ねる。魚たちの居場所をつくり、周辺にある彩りを守ってゆく。



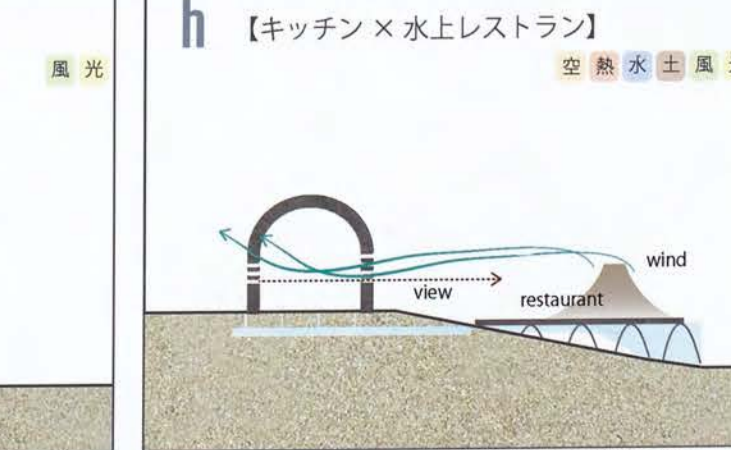
工場で住民の手でつくったオリジナルブロックを持ち帰り、ピロティの増築・改修の材料にする。ブロックを組み立てるだけでできるアーチで、地域住民が集まっておしゃべりする。季節によりかわってゆく風向きは灰の量で知らされ、住宅のファサードは呼吸し変化してゆく。



火山灰ブロックで造られた灰ブロック製造工場。ここでは、火山灰を乾燥する為に一面にさらされる。火山と噴火が繰り返す中、風が吹くことで、新たな水との付き合い方を生み、鹿児島だからこその生み出される風景を創造する。



既存の倉庫のレベル差を利用し簡易シェルターをつくる。噴火時に逃げ込むことのできる場所であり、階段でホームへ簡単にアクセスができる休憩所。今までもちに背をむけていた駅舎がシェルターというパヴァーゼーションを介して繋がってゆく。



既設を絡める水上レストラン。ここで釣った魚を食べる事ができる。跳き魚のいっしょはボールトの中を伝わってゆく。